

学校生活についてのアンケート調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小中学校児童生徒を対象に実施しています。

(2) 実施時期 2019年7月～10月

(3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生

(単位：人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,795	3,788	3,811	3,895	3,875	3,920	23,084	98.9%

中学生

(単位：人)

1年	2年	3年	計	回答率
3,394	3,271	3,390	10,055	96.0%

※回答率は令和元年9月1日現在の児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

(4) 調査・回収方法 無記名で回答し、記入後その場で回収

(5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

設問1～設問4 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問5 「自己の行動の見直し」

設問6～設問8 「周囲の児童生徒の意識」

2 調査結果の分析の観点

(1) 過去3年分での推移がつかめるよう、その学年の3年間分の数値を並べてグラフ化

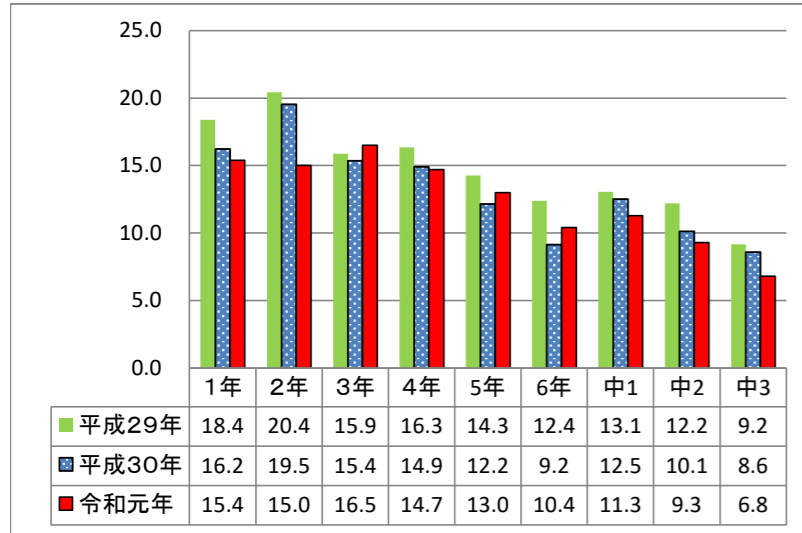
(2) 近年問題視される、パソコン、携帯電話・スマートフォン等に関わる割合の変化

(3) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合の比較

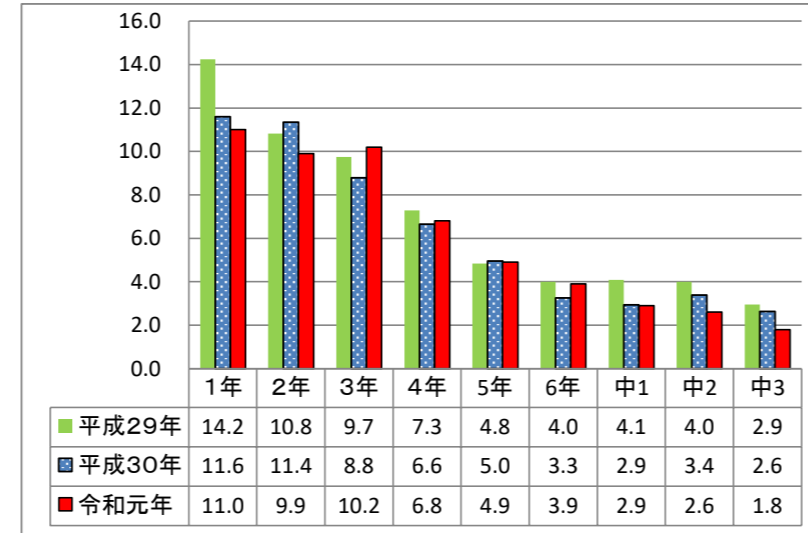
3 調査結果の分析と考察 (単位は全て%)

設問1 あなたは今年の4月から今までの間に、くり返し次のようなことをされたことがありますか。(学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒)

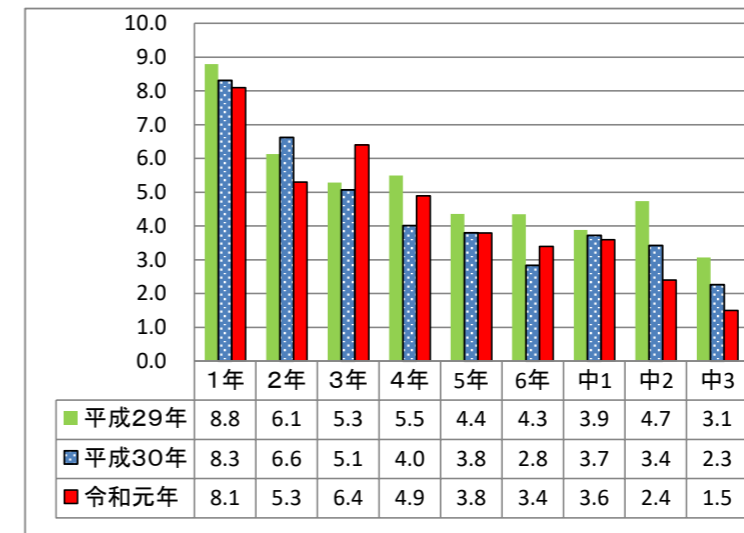
(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われた



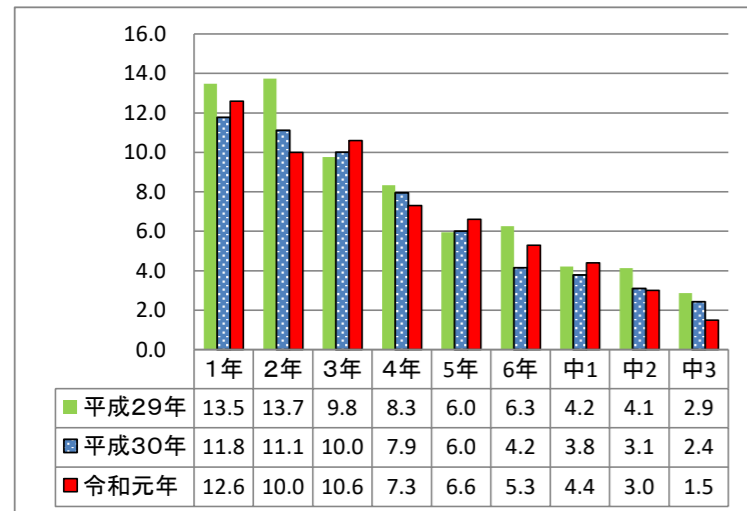
(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりした



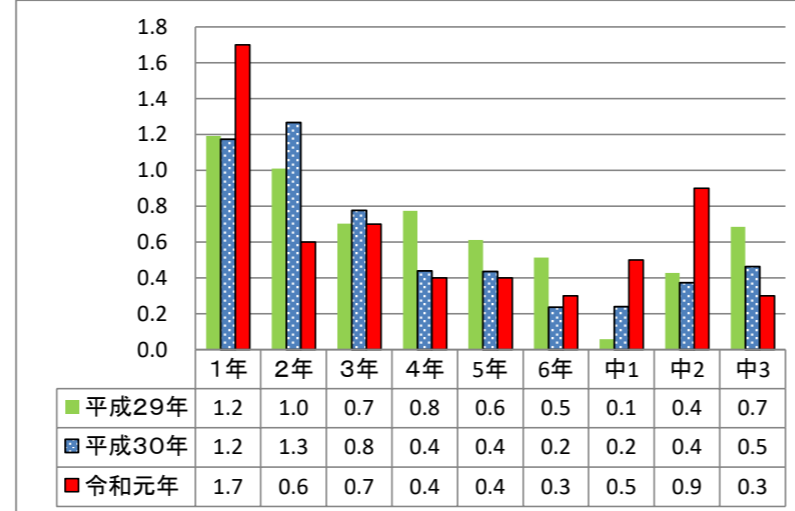
(3) 持ち物を取られたりかくされたりした



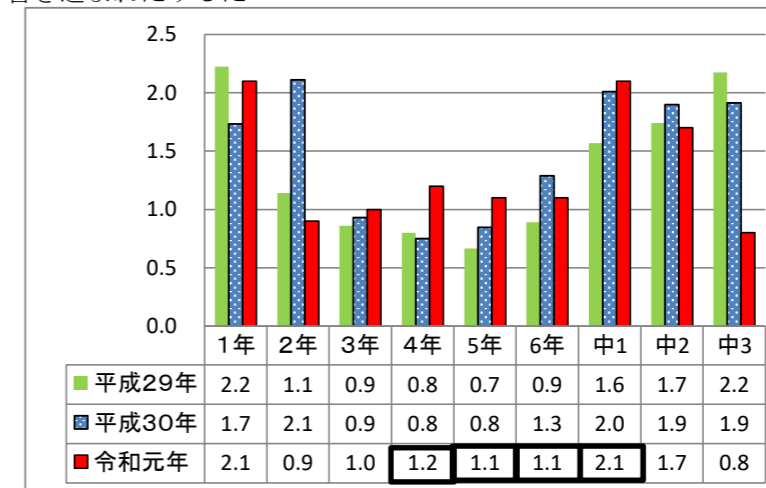
(4) なぐられたり、けられたりした



(5) お金を出させられたり、おごらされたりした



(6) 悪口の書いてある手紙を教室で回された(小学校低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言われたり、書き込まれたりした



(7) その他

(主な意見：令和元年度)

【小学校】
 ・自分の持ち物を勝手に触られる・命令された・陰口や悪口を言われる・仲間外れにされる・物を壊される・避けられる・つねられる・「死ね」と言われる・悪口を言われる・つねられた・にらまれた・嘘をつかれた・ボールをぶつけられた・グループLINEでの悪口

【中学校】
 ・悪口、陰口、暴言を言われる・LINEのブロックや退会・インスタグラムに体育大会の集合写真を無許可でアップされた・勝手に撮られた動画を不特定多数に送られた変な噂を流された・物を投げられる、壊される・友達の取り合い・変なあだ名で呼ばれる

(主な意見：平成30年度)

【小学校】
 ・黒板に悪口を書かれる・文句を言われた・つねられた・悪口を言われた・話そうとしたら逃げられた・「死ね」と言われる・にらまれた・命令された・勝手に消しゴムを取られた・嘘をつかれた・陰口、悪口を言われた・ボールをぶつけられた・授業中邪魔される・恥ずかしいことを大声で言われた

【中学校】
 ・陰口を言われる・菌扱いされた・LINEでからかわれる・きもいと言われる・死ねと言われた・物を投げられる・変なあだ名で呼ばれる・顔をばらまかれた・自分の方を見て笑ってくる・見た目について言われる・いじられる・動画を拡散された・SNSに勝手に写真を載せられた

(考察)

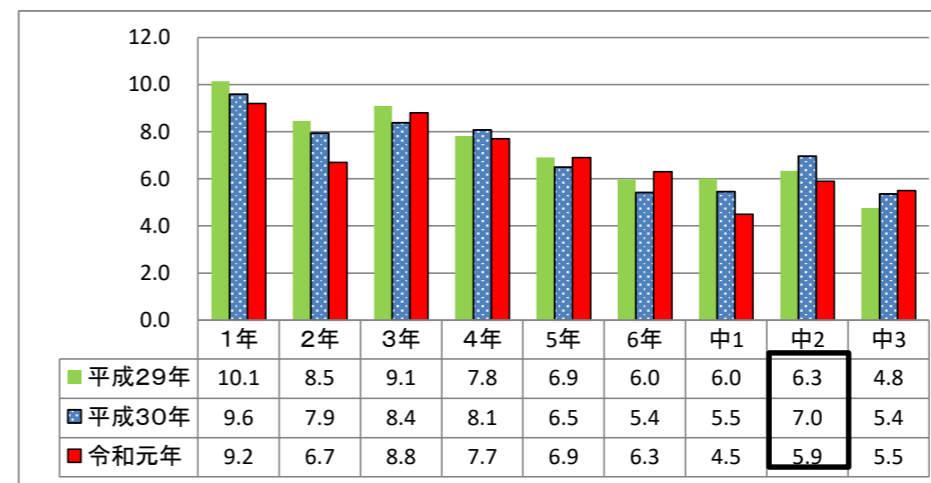
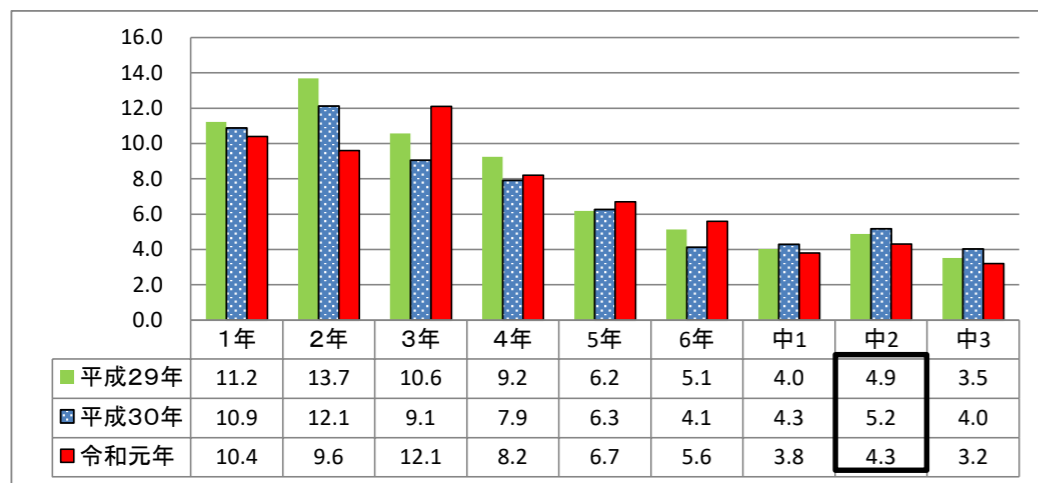
学校生活アンケートの結果について、平成29年度から令和元年度までの3年間の変容を並べて比較できるようにグラフ化しました。調査結果の全体的な傾向として、この3年間でほとんどの学年で減少傾向となっています。

減少傾向となっている理由として考えられる一点目として、小学校では児童支援担当教諭、中学校では生徒指導担当教諭を中心に、全教職員が児童生徒に寄り添いきめ細かな対応をしていること、二点目として、学校が学校生活アンケートにより把握した実態を指導に生かしていること、また、各学校で策定している「いじめ防止基本方針」に則り取り組んでいることにより成果をあげていること、三点目として児童生徒が自覚を持って自らいじめ防止を行う自治活動として、「あいさつ運動」「意見箱の設置」「いじめ防止教室」などを積極的に取り入れているということがあげられます。また、毎年開催している「S top いじめ！中学生の集い in ふじさわ」では、いじめ防止について各中学校生徒会の取り組みを報告しあい、各学校の取り組みの一層の充実を図っているところと考えられます。

課題としては、「(6) 悪口の書いてある手紙を回された(低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言われたり、書き込まれたりした」の問いに対しては、小学校4年生から中学校1年生にかけて増加傾向にあります。昨年度の調査では、小学校6年生から中学生にかけて増加傾向にあったものが、今年度の調査によりさらに低年齢化しています。携帯やスマートフォンの所持率が低年齢化している影響と捉えられます。各学校においては、情報モラル教育に力を入れており、児童生徒のネットトラブルについての理解は進んでいるものの、携帯電話等を持ち始める前の段階から、保護者も含めた情報モラル教育の一層の推進を図るなどの対策が必要です。

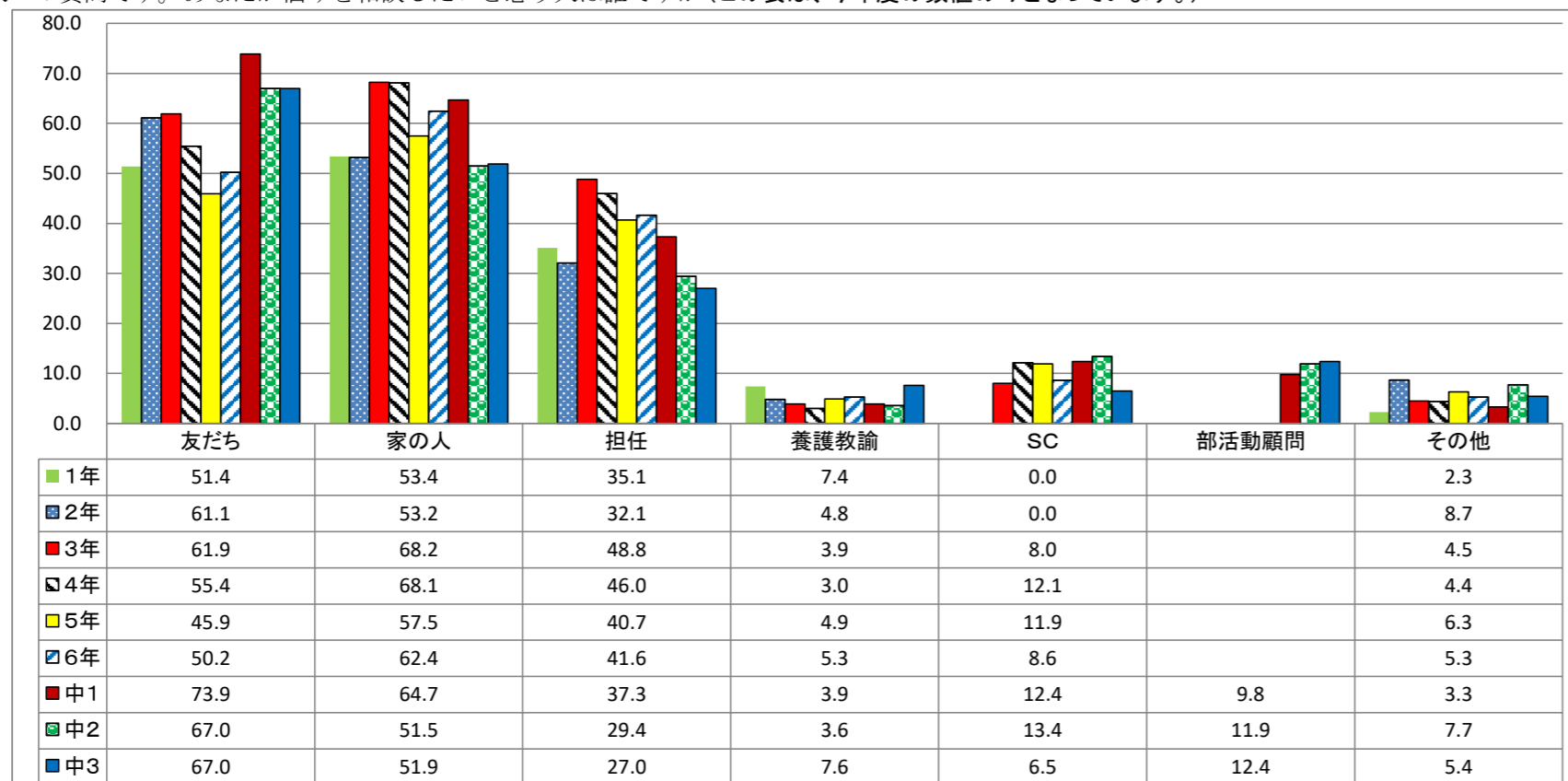
設問2 あなたは、1の(1)~(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなることがありますか？

設問3 あなたは、友達のことで悩んでいることや、心配なこと、相談したいことがありますか？



設問4 3の質問で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか？いくつかでも○をつけてください。

3で「はい」と答えた人への質問です。あなたが悩みを相談したいと思う人は誰ですか(この表は、今年度の数値のみとなっています。)



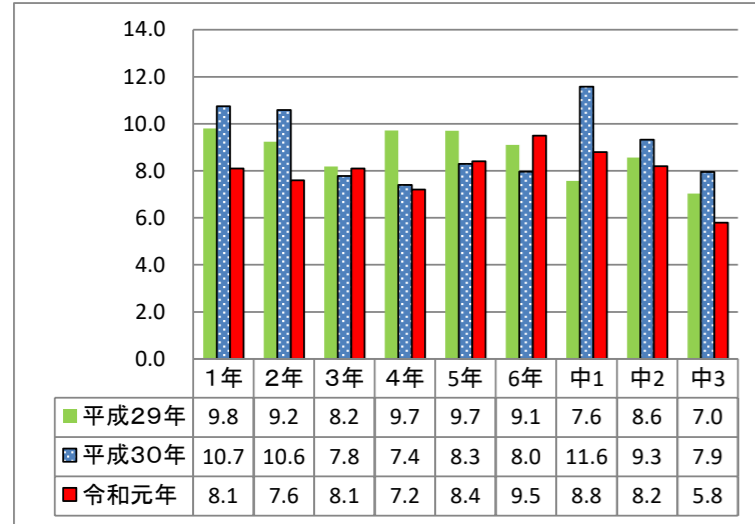
その他

(主な意見：令和元年度)
【小学校】
 ・校長先生・児童支援担当教諭・学年の先生・前担任・通級指導教室(すまいる)の人・教育委員会・相談センター・祖父母・兄・友達のお母さん・いとこ・児童クラブの人
【中学校】
 ・学年の先生・部活動の先輩・ネットの友達・塾、習い事の先生・相談フォーム・信頼できる他人
 (主な意見：平成30年度)
【小学校】
 ・祖母・警察・児童支援担当教諭・学童の指導員・校長先生・担任以外の先生・兄弟・友達のお母さん・病院のカウンセラー・いとこ・近所の人・友達のお母さん
【中学校】
 ・精神科・介助員・部活の先輩・いじめ110番・高校の先輩・デイサービス

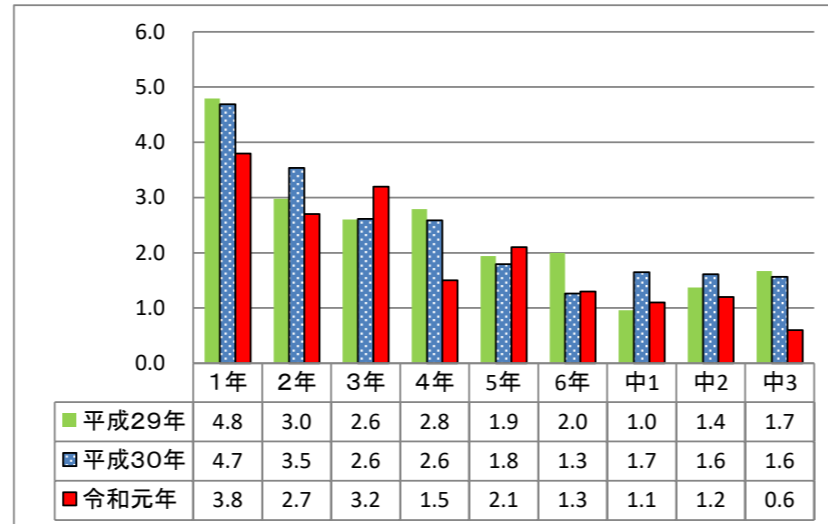
(考察)
 設問2及び設問3においては、全体的におおむねゆるやかな減少傾向にありますが、例年、中学2年生においては増加傾向が見られたことを考えると、人間関係での悩みやつらさは中学校2年生で多くなっていると捉えることができます。対象学年に対する適切な対策を図る必要があります。
 設問4については、昨年度同様、児童生徒が悩み事のかかえたときに相談したい相手の傾向は友達と家族はほぼ同水準となっており、次に学級担任という順になっています。小学校では、家族などの身近な人に相談する傾向が見られ、中学校になると家族よりも友だちに相談をする傾向が見られます。しかしながら、データにはありませんが、昨年度と比較すると、相談相手として「その他」と回答した児童生徒が全学年で増加傾向にあります。

設問5 あなたは今年の4月から今までの間に、周りの人に次のようなことをしたことがありますか。(学校生活の中で周りの人に嫌な行為をしたことがある児童生徒)

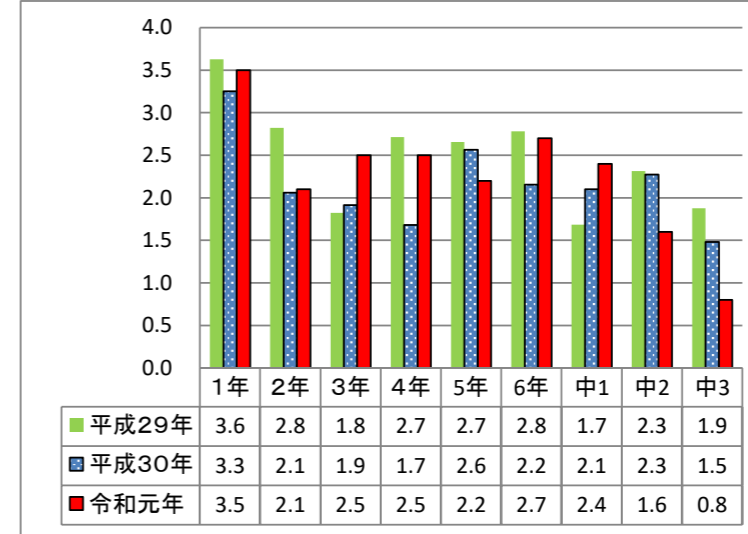
(1) ひやかしたり、からかったり、嫌がることを言った



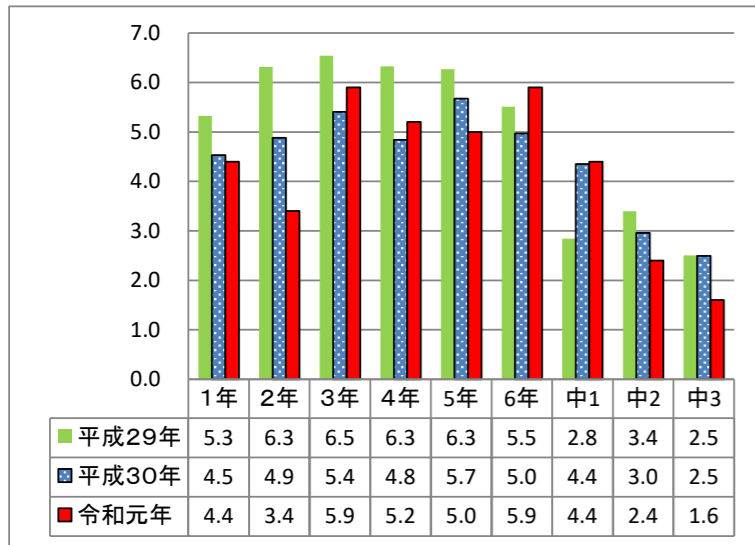
(2) 仲間はずれにしたり、無視したりした



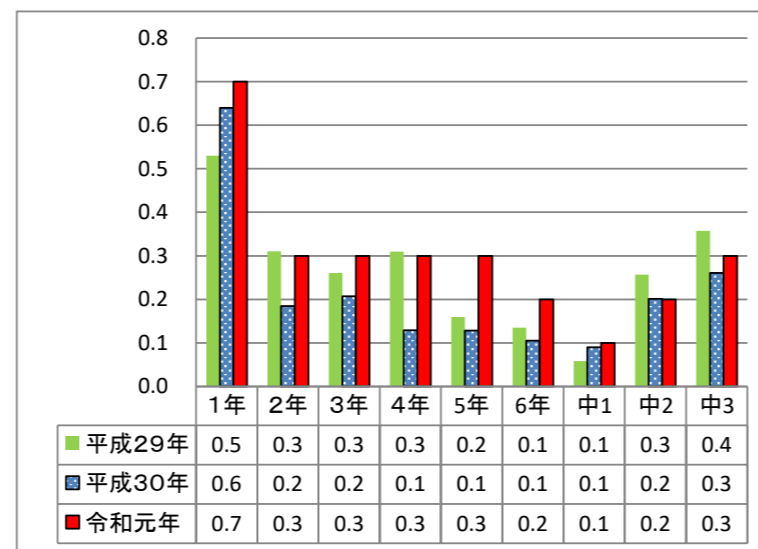
(3) 持ち物を取ったり、かくしたりした



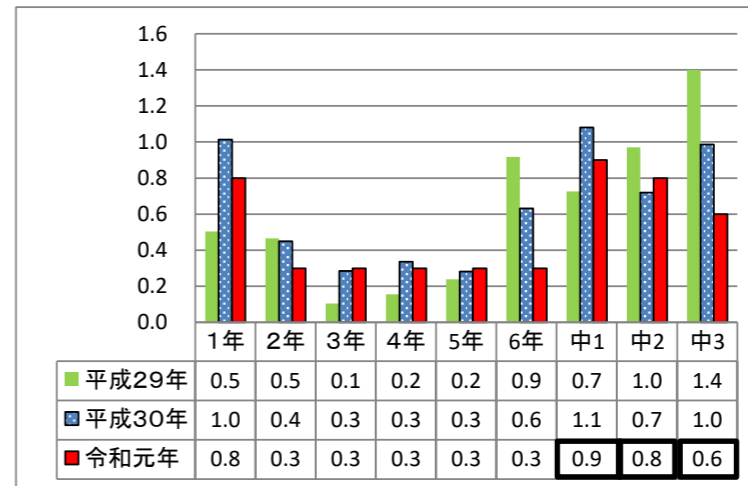
(4) なぐったり、けったりした



(5) お金を出させたり、おごらせたりした



(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年)
パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言ったり、書き込んだりした



(7) その他

(主な意見：令和元年度)

【小学校】
・首をしめた・からかいや殴るけるをやりかえした・転ばせた・落書き・ちょっかい・暴言・仲間外れ・陰口・変なあだ名をつけて呼んだ・

【中学校】
・話しかけられたときめんどくさい態度をとった・動画を撮ってLINEにあげた・いじった・集団で嫌なことをした・耳元で大声を出した

(主な意見：平成30年度)

【小学校】
・悪口を言った・うそをついた・きつく言ってしまった・机を倒す・やられたからやり返した・うるさくした・自由帳に嫌がることを書いた

【中学校】
・暴れてしまった・挑発した・中指を立てた・人のものを勝手に借りる

(考察)

設問5では、自分がしたことを調査しています。

各項目の調査結果で学年によりばらつきがある中、全体的に減少傾向にあります。

その中で、「(1) ひやかしたり、からかったり、嫌がることを言った」や「(4) なぐったり、けったり」についての質問は、他の質問より高い数値が出ています。また、「(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年)、パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言ったり、書き込んだりした」についての質問は、小学生よりも中学生に高い数値が出ています。

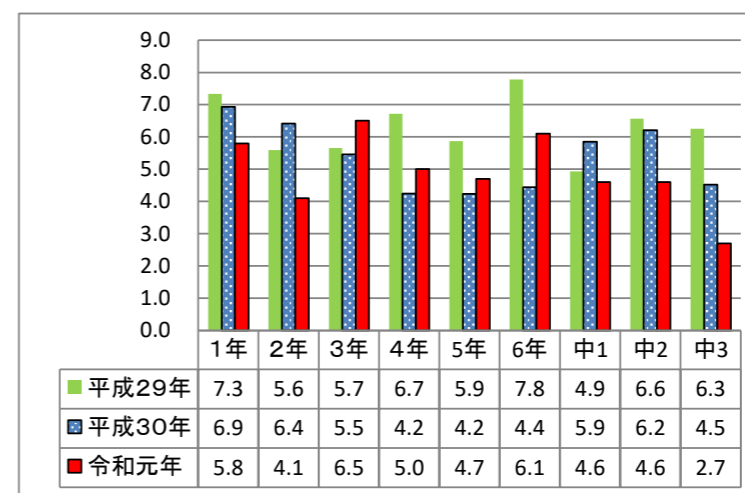
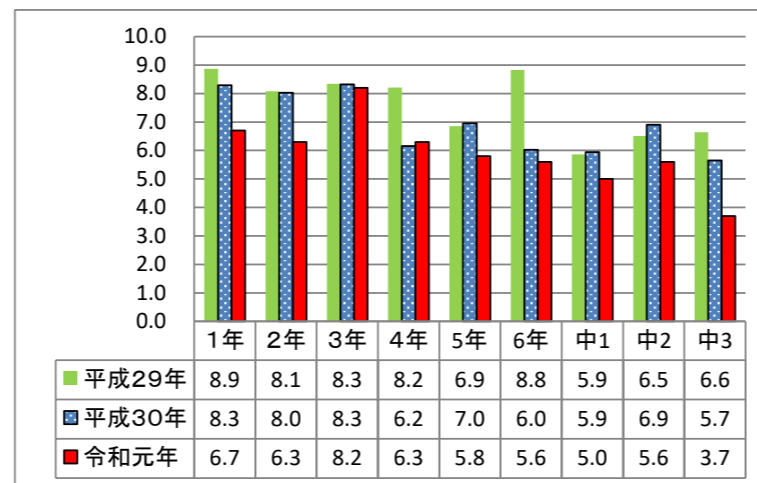
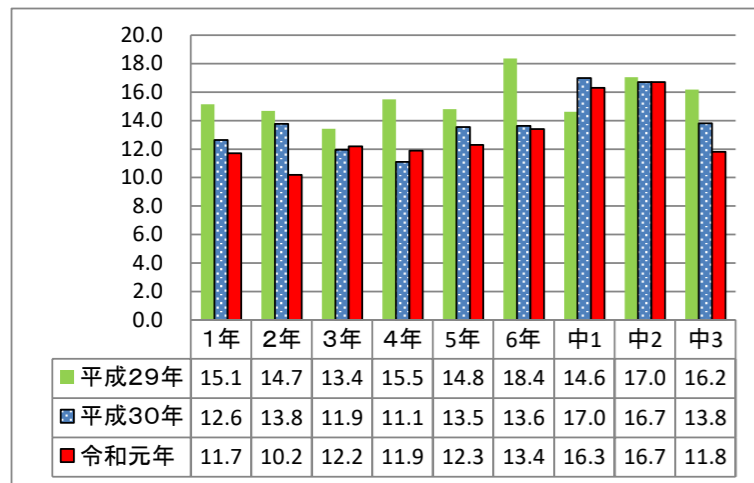
全体的な傾向として、自分がされたことを質問している設問1に比べ、数値が低くなっています。自分はいじめているつもりは無くても、相手にとっては嫌だと感じる場合があります。感じ方がそれぞれ違うことを認識させる必要があります。お互いに尊重し合い、日頃から相手の気持ちを考えて、生活していくことを指導していくことが大切です。また、情報モラル教育を今後も継続的に行い、児童生徒のネットトラブルについて理解を深める必要があります。

設問6 あなたは今年の4月から今までの間に、同じ人がくり返し、次のようなことをされている場面を見たり、聞いたりしたことがありますか。(周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒)

(1) ひやかされたり、からかわれたり、嫌がることを言われていた

(2) 仲間はずれにされたり、無視されたりしていた

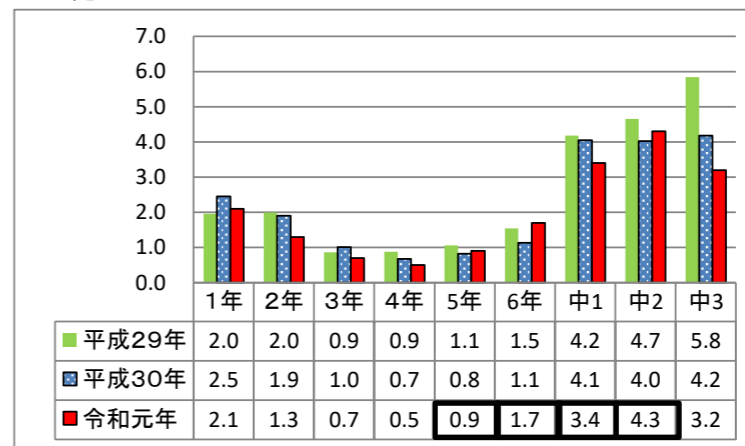
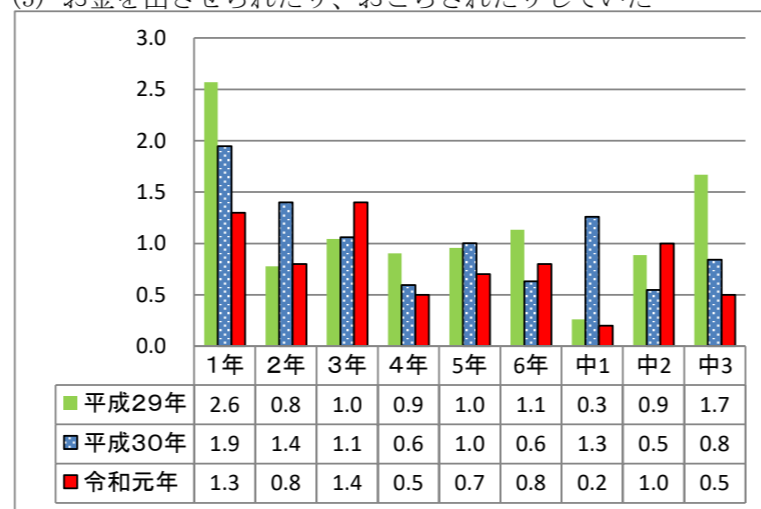
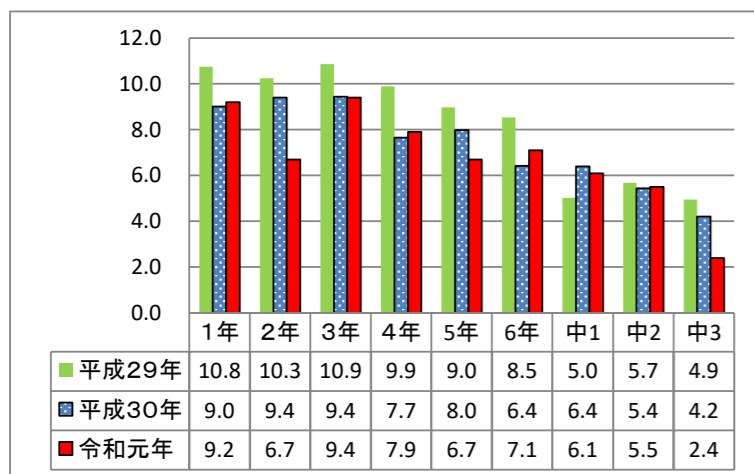
(3) 持ち物を取られたり、かくされたりしていた



(4) なぐられたり、けられたりしていた

(5) お金を出させられたり、おごらされたりしていた

(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年) パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を書き込まれていた



(7) その他

(主な意見：令和元年度)

【小学校】

・転ばせていた・こそこそ話をしていた・噂を言う・

【中学校】

・本人のいないところで悪口を言っていた・変なあだ名で呼ばれていた・不登校の生徒に悪口

(主な意見：平成30年度)

【小学校】

・陰で悪口を言っていた・押されていた・人のものを蹴ったり、乱暴にされていた・砂をかけられていた・いたづらをされていた・情報が回されていた・追いかけられていた

【中学校】

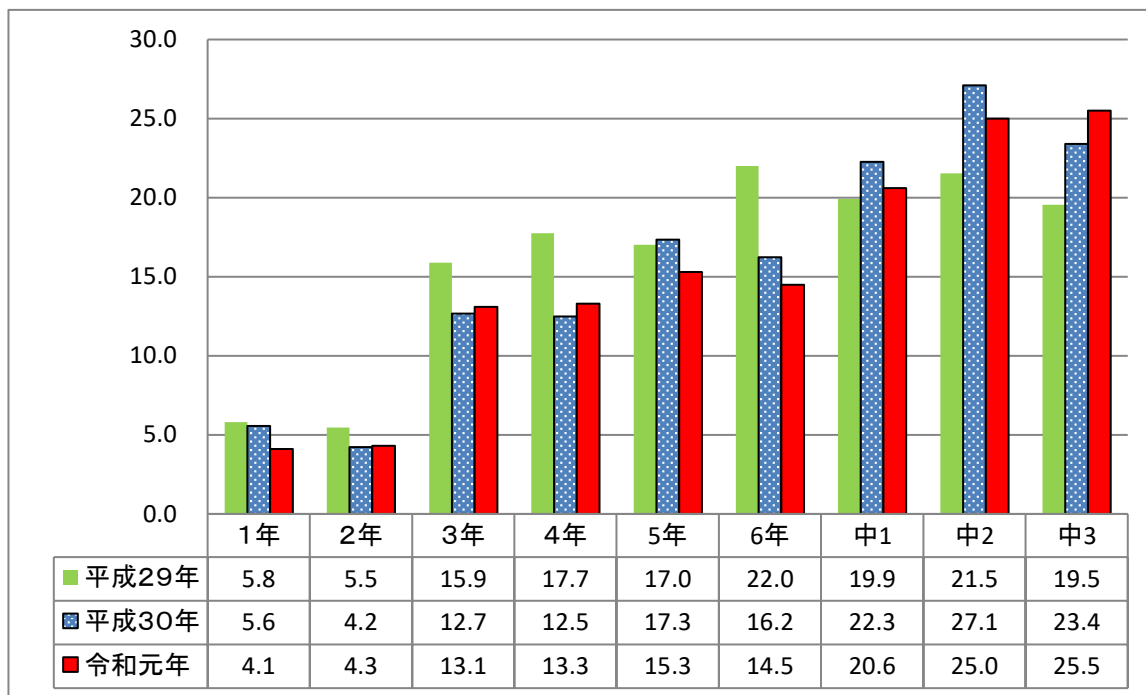
・本人のいないところで悪口を言っていた・変なあだ名で呼ばれていた・不登校の生徒に悪口

(考察)

全体的な傾向としては、3年間での減少傾向が見られます。また、「(6) 人の悪口を書いた手紙を教室で回した(小学校低学年)、パソコンや携帯電話・スマートフォンで悪口を言ったり、書き込んだりした」についての質問は、小学校5年生から中学校1年生にかけて増加しています。この傾向は、設問1の(6)において、「自分がされたこと」及び設問5の「自分がしたこと」についての結果と類似しています。ネットトラブルについては、学校や保護者が感知しづらいため、こういった情報を見たり聞いたりした児童生徒がすみやかに教師等に伝えられる環境をつくり対応していくことが大切になってきます。情報モラル教育の推進に合わせて、児童生徒への心の教育を一層充実させていく必要があります。

さらに、本設問は、設問1同様、設問5の「自分がしたこと」に比べ、数値が高くなっています。各学校の取り組みなどにより、いじめについての児童生徒の感度が上がったこと、一つの事案に対して、複数の児童生徒からの回答の可能性があることなどが考えられます。

設問7 あなたのまわりには、6の(1)~(7)のようなことから、学校に来るのがつらくなっている人がいると思いますか？



設問8 6の(1)~(7)のような場面を見たり、聞いたりしたら、どうしますか？

(主な意見：令和元年度)

【小学校】

・相談にのる・味方になってあげる（自分のグループに入れてあげる）・止める・後で事情を聞いてあげる・家の人に言う・注意する・先生（校長先生、教頭先生、担任の先生、みんなの先生、保健室の先生）に言う・周りの大人に言う

【中学校】

・周りの人（仲の良い人）と協力して止める・相談に乗ってあげる（一緒にいてあげる）・寄り添ってあげる・先生に言う・大人（親、信頼できる大人）に言う

(主な意見：平成30年度)

【小学校】

・注意する・先生に言う・止める・家の人に言う・助ける・話し合う・謝るように言う・相談相手になる・SCに相談する・やっている子の親に言う・声をかけてあげる・励ます・一緒に遊ぶ・やっている理由を聞く・助けたいけど怖くてできない・何もしない

【中学校】

・先生に言う・保護者に言う・SCに相談する・注意する・助ける・相談に乗る・なぜそうするのか聞く・何もできない・大丈夫と声をかける・友達に相談して先生に言う・話し合いなどをするように説得・証拠を残す

4 アンケート結果から見えるいじめ防止対策の取組の成果と課題

(1) 取組の成果

「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒」については、経年の推移や学年が上がるにつれ減少傾向が見られています。また、「周囲の児童生徒が嫌がらせ行為を行っている場面を見たり聞いたりしている児童生徒」については、児童生徒の感度が高くなっていることが見てとれます。この結果は次のような取組の成果だと考えられます。

ア 小学校では児童支援担当教諭、中学校では生徒指導担当教諭を中心に、全教職員が児童生徒に寄り添いきめ細かな指導を行うことや学校生活アンケート等の実施により、いじめの早期発見・早期対応につながっているということ。さらには、教育委員会のいじめ防止対策担当専任指導主事及びいじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会の開催により、教職員のいじめに対する意識や対応力が高まっているということ。

イ 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実を図り、いじめに関する問題を児童生徒が自分自身のこととして考えることができるよう計画的・発展的に取り組んでいるということ。

ウ 児童生徒のいじめに対する自覚が高まり、「あいさつ運動」「意見箱の設置」「アンケート調査」の実施など、各学校において児童生徒によるいじめ防止に向けた自治活動が積極的に推進されているということ。

(2) 課題

ア 小学校4年生から中学校1年生にかけてパソコンや携帯電話・スマートフォンによるトラブルが増加しています。昨年度の調査と比較すると低年齢化が進んでいると捉えることができます。このことから、小学校低学年からの情報教育の推進が必要です。

イ 例年、中学校2年生において、友達のことや、心配なこと、相談したいと答えている生徒に増加傾向が見られることを考えると、友人関係での悩みは中学校2年生で多くなっていると捉えることができます。このことから、中学校生活に慣れたこの学年の特性を理解し、一層丁寧な指導と支援が必要です。

5 今後の取組

学校は、いじめの未然防止・早期発見に向けて、より一層児童生徒理解を充実させていきます。そのためには、児童支援担当教諭、生徒指導担当教諭を中心に学校内において情報を共有し、チームで支援指導していくことが重要になるため、スクールカウンセラーや関係諸機関を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。

教育委員会は、いじめ防止対策担当専任指導主事及びいじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させていきます。児童生徒のネットトラブルが低年齢化していることを踏まえ、引き続き学校において、児童生徒・保護者に対する情報モラル教育を推進するとともに、学校に対して対処法等について最新の情報を提供し、トラブルが発生した際には学校と連携して早期対応を図ります。